

# 資料編

## 参考・引用文献一覧

### はじめに

寺田寅彦, 1934 : 天災と国防, 小宮豊隆編, 寺田寅彦随想集 第五巻, 岩波文庫, pp. 56-66.

### 第1章第1節・第2節

Aramaki, S., 1984 : Formation of the Aira caldera, southern Kyushu, ~22,000 years ago, *J. Geophy. Res.*, 89, pp. 8485-8501.

荒牧重雄・小林哲夫, 1986 : 始良カルデラ・桜島火山の噴出物の全岩組成と安永噴火, 第5回桜島火山の集中総合観測, 京都大学防災研究所附属桜島火山観測所, pp. 115-129.

福山博之, 1978 : 桜島火山の地質, *地質学雑誌*, 84, pp. 309-316.

福山博之・小野晃司, 1981 : 桜島火山地質図 1 : 25,000, 地質調査所

本間不二男, 1935 : 日本火山誌1・桜島, 火山(第1集), 2, pp. 226-296.

井村隆介, 1998 : 史料からみた桜島火山安永噴火の推移, *火山*, 43, pp. 373-383.

岩松 暉・小林哲夫, 1984 : 桜島火山の有史軽石の分布と浸食作用, 桜島地域学術調査協議会調査研究報告, 第2集, pp. 149-158.

泉 拓良・小林哲夫・松井 章・諏訪 浩・江頭庸夫・加茂幸介, 1991 : 桜島における縄文人の生活と火山災害, 桜島・武具塚の発掘調査, 京大防災研年報, 34号A, pp. 81-190.

鎌田浩毅・児玉一人, 1993 : 火山構造的陥没地としての豊肥火山地域とその形成テクトニクス—西南日本弧・琉球弧会合部におけるフィリピン海プレートの斜め沈み込み開始が引き起こした3現象—, *地質学論集*, no. 41, pp. 129-148.

Kamo, K., 1989 : A dialogue with Sakurajima Volcano. *Proceedings of Kagoshima International Conference on Volcanoes 1988*, pp. 3-13.

加茂幸介・石原和弘, 1980 : 地盤変動からみた桜島の火山活動, 桜島地域学術調査協議会調査研究報告, 鹿児島県, pp. 19-28.

Kaneoka, I., Aramaki, S., Kobayashi, T., and Oki, K., 1984 : Pliocene and Pleistocene volcanism in southern Kyushu : K-Ar ages of Fumoto and Isaku pyroclastic flows and related rocks. *Bull. Volcanol. Soc. Japan*, 29, pp. 59-62.

桑代 勲, 1964 : Proto-caldera について—始良カルデラの場合—, *地学雑誌*, 73, pp. 114-120.

小林哲夫, 1982 : 桜島火山の地質 : これまでの研究の成果と今後の課題, *火山*, 27, pp. 277-292.

小林哲夫, 1986a : 桜島火山の断続噴火によって形成された火山灰層, 鹿児島大学南科研資料センター報告特別号, no. 1, pp. 1-12.

小林哲夫, 1986b : 桜島火山の形成史と火砕流, 文部省科学研究費自然災害特別研究, 計画研究「火山噴火に伴う乾燥粉体流, 火砕流等」の特質と災害, 課題番号A-61-1, 代表者: 荒牧重雄) 研究成果報告書, pp. 137-163.

小林哲夫, 2009 : 桜島火山, 安永噴火(1779-1782年)で生じた新島(安永諸島)の成因, *火山*, 54, pp. 1-13.

小林哲夫・荒牧重雄, 1989a : 桜島火山の最近の噴出物の組成変化, 鹿児島国際火山会議 1988 論文集, pp. 36-39.

小林哲夫・荒牧重雄, 1989b : 桜島火山から放出された異質噴出物, 第7回桜島火山の集中総合観測, pp. 95-102.

小林哲夫・江崎真美子, 1997 : 桜島火山, 噴火史の再検討, *月刊地球*, 19, pp. 227-231.

小林哲夫・溜池俊彦, 2002 : 桜島火山の噴火史と火山災害の歴史. 第四紀研究, 41, pp. 269-278.

小林哲夫・奥野 充, 2003 : 南九州および南西諸島における火山の噴火史, 南太平洋海域調査研究報告, no. 37, pp. 2-11.

- 小林哲夫・矢野 徹, 2007 : 南九州の地質・地質構造と温泉, 温泉科学, 57, pp. 11-29.
- Kobayashi, T., Ishihara, K., Hirabayashi, J., and Ohsumi Work Office of Ministry of Construction, 1988 : Scientific guide for Sakurajima Volcano. In: Kagoshima International conference on volcanoes (A guide book for Sakurajima Volcano), pp. 1-73.
- 小林哲夫・奥野 充・中村俊夫・福島大輔, 2009 : 桜島・南岳で発見された歴史時代の溶岩流, 日本火山学会講演予稿集 (2009 年度秋季大会) :, p. 164
- Koto, B., 1916 : The great eruption of Sakura-jima in 1914, J. Coll. Sci. Imp. Univ. Tokyo, 38, pp. 1-237.
- 町田 洋・新井房夫, 1992 : 火山灰アトラスー日本列島とその周辺, 東京大学出版会, p. 276
- 味喜大介, 1999 : 古地磁気方位・強度測定による桜島の溶岩流の年代推定, 火山, 44, pp. 111-122.
- 三木雅子, 1991 : 古地磁気からみた沖縄トラフの形成モデル, 月間地球 号外, no. 3, pp. 212-216.
- 森脇 広, 1994 : 桜島テフラ層序・分布と細粒火山灰の層位, 文部省科学研究費(一般研究 C), 研究成果報告書「鹿児島湾周辺における第四紀後期の細粒火山灰層に関する古環境学的研究」, pp. 1-20.
- Nagaoka, S., 1988 : Late Quaternary tephra layers from the caldera volcanoes in and around Kagoshima Bay, southern Kyushu, Japan. Geogr. Rep. Tokyo Metropolitan Univ., no. 23, pp. 49-122.
- 長岡信治・奥野 充・新井房夫, 2001 : 10 万～3 万年前の始良カルデラ火山のテフラ層序と噴火史, 地質学雑誌, 107, pp. 432-450.
- 大木公彦・船津俊宏・早坂祥三, 1990 : 鹿児島市南部の地質・とくに伊作火砕流と照国火砕流との関係について, 浦島幸世教授退官記念論集, pp. 125-133.
- 奥野 充, 2002 : 南九州に分布する最近 3 万年間のテフラの年代学的研究, 第四紀研究, 41, pp. 225-236.
- 奥野 充・澗池俊彦・成尾英仁・森脇 広・中村俊夫・小林哲夫, 1999 : 桜島 P 13 テフラ (Sz-P13) の噴出年代一埋没土壌の加速器  $^{14}\text{C}$  年代から一, 鹿児島考古, 33, pp. 95-102.
- Okuno, M., Nakamura, T., Moriwaki, H., and Kobayashi, T., 1997 : AMS Radiocarbon dating of the Sakurajima tephra group, southern Kyushu, Japan, Nuclear Instruments and Methods in Physics Research, B123, pp. 470-474.
- Okuno, M., Nakamura, T., and Kobayashi, T., 1998 : AMS  $^{14}\text{C}$  dating of historic eruptions of the Kirishima, Sakurajima and Kaimondake volcanoes, southern Kyushu, Japan. Radiocarbon, 42 (2), pp. 825-832.
- 大森房吉, 1918 : 震災予防調査会報告, no. 86 (日本噴火志 上編), p. 236
- 大塚裕之・西井上剛資, 1980 : 鹿児島湾北部沿岸地域の第四系, 鹿児島大学理学部紀要(地学・生物学), no. 13, pp. 35-76.
- 柴田 賢・小野晃司・早坂祥三・大木公彦・山本温彦, 1978 : 鹿児島市直下, 照国火砕流の K-Ar 年代, 地質学雑誌, 84, pp. 551-553.
- 下村彦一, 1960 : 始良沈水カルデラの地形区分, 広島大文学部紀要, no. 18, pp. 308-331.
- 高橋正樹・大塚 匡・川俣博史・小林哲夫, 1999 : 桜島火山におけるマグマ化学組成の時間変化, 日本火山学会講演予稿集 (1999 年度秋季大会), p. 24
- 鳥井雅之, 林田 明, 乙藤洋一郎, 1985 : 西南日本の回転と日本海の誕生, 科学, 55, pp. 47-52.
- 露木利貞, 1969 : 九州地方における温泉の地質学的研究(第 5 報)鹿児島地溝内の温泉ー特に温泉貯留体について, 鹿児島大学理学部紀要(地学・生物学), no. 2, pp. 85-101.
- 宇都浩三・阪口圭一・内海 茂, 1997 : 鹿児島県北薩地域の第三紀火山活動史と火山構性地溝の形成, 京都大学防災研究所研究集会 (9S-4) 古地磁気学的手法を用いた火山活動史の復元(研究代表者 味喜大介), pp. 89-95.
- 宇都浩三・味喜大介・Nguyen, H.・周藤正史・福島大輔・石原和弘, 2005 : 桜島火山マグマ化学組成の時間変化, 京都大学防災研究所年報, no. 48 B, pp. 341-347.
- 山口鎌次, 1915 : 桜島近海の島嶼に就て (承前), 地学雑誌, 27, pp. 128-146.
- 山口鎌次, 1975 : 桜島火山の研究, 日本地学教育学会, 東京, 128p.
- 山下 昇, 1993 : ナウマンの「構造起源」から江原の「太平洋運動」まで, 日本の地質学 100 年, 日本地質学会, pp. 2-19.

### 第1章第3節1・2・3

気象庁, 2005 日本活火山総覧 (第3版), p. 645

萩原尊禮・表俊一郎・村内必典・明石和彦・山田重平, 1946 昭和 21 年 3 月櫻島噴火, 地震研究所彙報, 第 24 号, pp. 143-159.

吉川圭三・西潔, 1969 : 桜島深部の地震活動について, 京都大学防災研究所年報, 第 12 号 A, pp. 57-65.

### 第1章第3節4

建設省九州地方建設局大隈工事事務所, 1995 : 桜島の土石流 2, p. 81

板垣治・神野忠広, 1988 : 桜島における火山砂防の現状と課題, 九州技法, 4, pp. 25-30.

建設省九州地方建設局大隈工事事務所, 1988 : 桜島の土石流, p. 64

板垣治・神野忠広, 1988 : 桜島における火山砂防の現状と課題 : 九州技報, 4, pp. 25-30.

伊豆直吉, 1920 : 噴火前後の状況, 桜島火山の大正三年に於ける噴火状況並噴出物に関する調査報文, 鹿児島高等農林学校, pp. 183-204.

鹿児島県, 1927 : 桜島大正噴火誌, p. 464

金井眞澄, 1920 : 大正三年度に於ける桜島火山の噴火状況並噴出物及作物栽培に関する調査試験報文, 桜島火山の大正三年に於ける噴火状況並噴出物に関する調査報文, 鹿児島高等農林学校, pp. 1-107.

肝属郡役所, 1915 : 桜島爆発肝属郡被害始末誌, p. 525

建設省九州地方建設局大隅工事事務所, 1988 : 桜島の土石流, p. 64

建設省九州地方建設局大隅工事事務所, 1995 : 桜島の土石流 2, p. 81

Omori, 1916 : The Sakurajima Eruptions and Earthquakes II, Bull. of the Imp. Earthq. Inv. Comm., Vol. 8, No.2, pp.94-171

林学教室, 1920 : 高隅演習林の被害及び林木の回復状況, 桜島火山の大正三年に於ける噴火状況並噴出物に関する調査報文, 鹿児島高等農林学校, pp. 109-181.

桜島大爆震記編纂事務所, 1914 : 大正 3 年桜島大爆震記, p. 340

下川悦郎・地頭蘭隆, 1987 : 火山灰の被覆が火山体の侵食速度に及ぼす影響 — 桜島火山を中心にして —, 地形, 8, pp. 269-286.

下川悦郎・地頭蘭隆・小林哲夫, 1991 : 大正 3 年桜島大噴火が火山周辺域の侵食に及ぼした影響, 平成 2 年文部省科学研究費補助金重点領域研究 (2) 研究成果報告書, pp. 3-26.

### 第2章第1節

鹿児島県立博物館, 1988 : 大正三年桜島大噴火写真集

大森房吉, 1914 : 震災予防調査会報告, 第 80 号

鹿児島県, 1927 : 桜島大正噴火誌

### 第2章第2節1・2、第3章第1節・第2節2・第3節、第4章第2節4

鹿児島県立博物館, 1988 : 大正三年桜島大噴火写真集

九州鉄道管理局編, 1914 : 大正三年桜島噴火記事

宮原景豊 (私家本), 1991/別 1914~ : 島火記事/別 : 写真集, 鹿児島県立博物館所蔵

山下兼秀, 1988 : 桜島噴火描画絵巻/山下兼秀画伯, 鹿児島市立美術館

野添武志, 1980 : 大正三年桜島爆発の日, 南日本新聞開発センター

鹿児島県, 1927 : 桜島大正噴火誌

鹿児島新聞記者共纂, 1914 : 大正三年一月十二日桜島大爆震記

鹿児島県, 1914 : 桜島移住書籍 (桜園区長保管)

東桜島村, 1925 : 大正三年桜島爆発遭難録

西桜島村, 1964 : 大正三年桜島噴火 50 年記念誌, 同郷土誌

垂水市教育委員会, 1988, 2006 : 垂水市史料集(8)牛根編/同(18)垂水と桜島噴火  
 金井真澄, 1920 : 桜島火山の大正3年に於ける噴火状況並噴出物に関する調査, 鹿児島高等農林学校  
 鹿児島市, 1924 : 鹿児島市史桜島大爆発編  
 鹿児島市, 1992 : 鹿児島市議会 100年の歩み  
 鹿児島県警察史, 1972 : 鹿児島県警察史第一巻, 鹿児島県警察史編さん委員会  
 鹿児島県議会, 1971 : 鹿児島県議会史第一巻  
 鹿児島県, 1986 : 桜島火山対策ハンドブック—現状と制度の概要—  
 鹿児島市, 2007 : 桜島火山対策要覧  
 曾於郡役所, 1916 : 桜島大爆発誌  
 桜島噴火の一件, 大正3年桜島噴火に関する防衛研究資料 : 防衛省防衛研究所蔵  
 桜島噴火に因る傷者救護に関する件, 陸軍省大日記大正3年 : 防衛省防衛研究所蔵 :  
 日本気象協会, 1983 : 鹿児島の気象百年誌  
 橋村健一, 1994 : 桜島大噴火, 春苑堂書店  
 黒岩源三私家本, 1991 : 桜島と噴火  
 永正孤峯私家本, 1915 : 桜島爆震記  
 垂水村教育会, 1915 : 垂水村郷土誌付録第六大正三年一月爆発概要  
 松山三蔵私家本, 1993 : 大正三年桜島噴火  
 内田孝蔵ほか, 1938 : 大正三年桜島噴火探検二十五周年追憶記, 飯島診療所  
 大野中学校, 1982 : 牛根大野の歩み  
 園田 実, 溝口辰助私家本 : 桜島噴火ノ件, 桜島大噴火  
 第七高等学校学友会, 1914 : 桜島噴火記念号 : 学友会雑誌 29号  
 鹿児島西高齢者学級, 1972 : 大正三年桜島爆発の思出集  
 朝日新聞社, 1964 : 日本の火山展

## 第2章第2節3～9・第3節 : 第1章第3節参照

### 第2章第4節

Omori, F., 1920 : The Sakura-jima eruptions and earthquakes. V. Bull. Imperial Earthquake Investigation  
 Committee, Vol. 8, No. 5, pp. 353-466.  
 大森房吉, 1918 : 日本噴火誌上編, 震災予防調査会報告, 第86号, p. 236  
 大森房吉, 1918 : 日本噴火誌下編, 震災予防調査会報告, 第87号, p. 116  
 今村明恒, 1920 : 九州地震帯, 震災予防調査会報告, 第92号, pp. 1-94.  
 鹿児島県, 1927 : 桜島大正噴火誌, p. 466  
 野添武志, 1980 : 桜島爆発の日, 南日本新聞開発センター, p. 214  
 鹿児島県立博物館, 1988 : 大正三年桜島大噴火写真集, 鹿児島県教育委員会, p. 64  
 桜島大爆震記編纂事務所, 1914 : 大正3年桜島大爆震記, p. 340  
 桜島町, 1988 : 桜島町郷土誌, p. 964  
 安井真也・高橋正樹・石原和弘・味喜大介, 2006 : 桜島火山大正噴火の記録, 日本大学理学部自然科学研究所研究紀要,  
 第41号, pp. 75-107.

## 第3章第1節・第2節2・第3節 : 第2章第2節1・2参照

### 第3章第2節1 : 第1章第3節参照

## 第4章第1節・第2節1 (第2節2・3は第1章第3節、4は第2章第2節1・2参照)

大森房吉, 1918 : 日本噴火誌下編, 震災予防調査会報告, 第87号, p. 116

- 津屋弘達・水上武, 1940: 昭和 14 年 10 月櫻島火山の小噴火, 地震研究所彙報, 第 18 号, pp. 318-339.
- 萩原尊禮・表俊一郎・村内必典・明石和彦・山田重平, 1946: 昭和 21 年 3 月櫻島噴火, 地震研究所彙報, 第 24 号, pp. 143-159.
- 永田武・佐久間修三・福島直, 1946: 櫻島新噴出溶岩流について, 地震研究所彙報, 第 24 号, pp. 161-170.
- 水上武・佐久間修三, 1946: 最近の櫻島火山の活動に就いて (II), 地震研究所彙報, 第 24 号, pp. 179-184.
- 佐々憲三, 1956: 地震予知に関する 2, 3 の問題, 防災研究所創立記念論文集, pp. 3-7.
- 茂木清夫, 1957: 櫻島の噴火と周辺の地殻変動との関係, 火山, 第 1 巻, pp. 9-18.
- 吉川圭三・西潔, 1965: 櫻島火山における地震観測について (第 3 報: 噴火直前の微小地震群について), 京都大学防災研究所年報, 第 8 号, pp. 43-49.
- 西潔, 1971: 櫻島火山の火山性微小地震と爆発の研究 (2) - 火山性地震の震源分布一, 京都大学防災研究所年報, 第 14 号 A, pp. 113-121.
- 加茂幸介, 1978: 櫻島における噴火の前駆現象と予知, 火山, 第 23 巻, pp. 53-64.
- 国土庁防災局, 1992: 火山噴火災害危険区域予測図作成指針
- 石原和弘, 1995: 櫻島火山の噴火活動予測, 科学, 岩波書店, 第 65 巻, pp. 708-710.
- 鹿児島県防災会議, 1997: 鹿児島県地域防災計画 (火山災害対策編), p. 400
- Sri Hidayati, Ishihara, K., Iguchi, M., 2007: Volcano-tectonic Earthquakes during the Stage of Magma Accumulation at the Aira Caldera, Southern Kyushu, Japan, 火山, 第 52 巻, pp. 289-309.

## コラム 1

- 岩松 暉・小林哲夫, 1984: 櫻島火山の有史軽石の分布と浸食作用, 櫻島地域学術調査協議会調査研究報告, 第 2 集, pp. 149-158.

## コラム 2

- 金井眞澄, 1914: 櫻島噴火略報. 地学雑誌, 26, pp. 369-378.
- 諸岡 存, 1937: 諸岡第四回探検記. 大正三年櫻島噴火探検二十五周年追憶記 (内田孝蔵・他編), pp. 19-27.
- 山口鎌次, 1928: 櫻島の噴出物スレッド レース スコリアとその起源について, 地質学雑誌, 35, pp. 157-187.
- 写真は産業技術総合研究所の HP から引用: <http://staff.aist.go.jp/y-kawanabe/yamaguchi/>

## コラム 3

- Koto, B., 1916: The great eruption of Sakura-jima in 1914. J. Coll. Sci. Imp. Univ. Tokyo, 38, pp. 1-237.
- 牧 暁村, 1914: 噴火探検記 (三), 鹿児島新聞大正 3 年 1 月 26 日の署名記事。  
\* 大正三年櫻島大爆震記 (鹿児島新聞社編) および大正三年櫻島大噴火記 (東孤竹) にも収録されている。
- 諸岡 存, 1937: 櫻島噴火口探検日記第一回続き. 大正三年櫻島噴火探検二十五周年追憶記 (内田孝蔵・他編), pp. 7-12.

## コラム 6

- 鹿児島県, 1927: 櫻島大噴火誌, p. 157

## その他参考資料

- 櫻島噴火記録映像 [動画]  
日本活動映画社, 櫻島大爆発 (大惨状実写), 1914  
東京大学地震研究所所蔵。

## コラム 7

- 永吉寶宏, 1914: 學友會雑誌第二十九號 櫻島噴火紀念號, 第七高等學校造士館學友會  
内田孝蔵ほか, 1937: 大正三年櫻島噴火探検二十五周年追憶記, 飯島診療所